

第1回武田薬品工業湘南研究所の環境保全に関する連絡会について報告

1. 日時 平成28年5月28日(土) 10:00~11:10
2. 場所 武田薬品工業(株)湘南研究所 会議室
3. 出席者 植木町内会、岡本住宅町内会、鎌倉ロジューマン、鎌倉岡本ガーデンホームズ、四季の杜自治会、ラシェール鎌倉岡本ハイライズ、レックスガーデン鎌倉岡本、鎌倉グランマークス：(13名出席)(1名欠席)
武田薬品工業(株)湘南研究所：(7名出席)
鎌倉市(環境保全課)：(2名出席)

4. 内容

会議に先立ち、武田薬品工業株式会社濱村コーポレートビジネスセンター パーソネル&アドミニストレーション部湘南オフィス長の挨拶後、平成28年度初回のため、各委員の紹介を自己紹介形式で行い、鎌倉市環境保全課長の進行のもと会議次第に沿って会議が行われた。内容は次のとおり。

(1) 鎌倉市からの報告

京都大学のiPS細胞研究所との共同研究について、市民団体の方から研究内容や環境対策等についての説明を求めたいとの要望が寄せられており、武田薬品工業株式会社湘南研究所へ説明等の対応を要請する。

武田：これから行う報告の中で、説明を行う。

(2) 武田薬品工業株式会社からの報告

資料に沿って、昨年度1年間に実施した環境測定結果報告及び協定書に係る覚書の一部改正、環境モニターの推薦の依頼、研究所周辺で行っているボランティア清掃、秋祭り、桜と新緑を楽しむ散策、希少植物の保存活動、タケダーサイラ共同プログラムについて説明があった。

主な内容は次のとおり。

・環境測定結果報告

排気測定の対象であるボイラー1台が測定時に休止中であったため、運転を再開する前に測定を実施する予定。

また騒音については、8月の測定の際に虫の鳴き声により超過した時間帯もあったが、それ以外はすべての項目について管理目標値より低い値であった。

・環境保全に関する協定書の改定について

水質汚濁防止法の改正に伴いトリクロロエチレンの排水基準の変更があり、協定書、別表2の法令基準及び管理目標を変更した。

・環境モニター推薦依頼

環境モニターについて、各自治会町内会に今年度も推薦をお願いしたい。

・ボランティア清掃、秋祭り、桜と新緑を楽しむ散策について

年4回、研究所所員が研究所周辺のボランティア清掃を行っており、先日も実施した。

昨年秋には秋祭りを開催し、多くの参加があった。

春の「桜と新緑を楽しむ散策」は、桜がまだ開花前で新緑のみを楽しむ散策になった。

- ・希少植物の保存活動

「環境影響予測評価」により、敷地内で自生が確認された希少植物種（ミゾコウジュ、ハマカキラン、コハナヤスリなど）の保存活動を継続して行っている。

- ・T-CiRA（タケダーサイラ）共同プログラム

武田とサイラ（京都大学 iPS 細胞研究所）との共同プログラムの内容について、現在公開中のホームページを参考に説明を行った。

各研究プロジェクトは責任者のサイラの先生の指揮のもと、サイラの研究者と武田の研究者が一体となり連携して研究を行っている。使用する実験室は通常の生化学実験室と変わりなく、特殊なものや特に危険な設備もなく、遺伝子組換え実験も P2 レベル以下のもので、共同研究を行う実験棟での大気保全対策、水質保全対策、廃棄物安全対策などに特別なものはない。共同実験に参加するサイラ側の研究者には、実験前に市と交わしている環境保全協定を含めて、環境・安全衛生・防災・遺伝子組換え実験等に関わる湘南研究所の規則・ルールを遵守するための教育を行っており、実験開始後も職場研修を行っていく。

- ・環境安全衛生方針について

このたび、湘南研究所において環境や安全衛生の活動を行っていく上で最も基本的な方針を定めた。この環境安全衛生方針は次の 5 項目から成る。

1. 法的小よびその他の要求事項を確実に遵守すること。
2. リスクを可能な限り低減すること。
3. 継続的に改善を進めること、
4. 教育と啓発を行うこと。
5. 社会とのコミュニケーションを進めること。

今後この方針に基づいて環境安全衛生活動に取り組んでいく。

主な質疑内容

住民：6月2日（木）の14:00～17:00までに6ヶ月定期点検でエンジンの試運転を行うので、場合によっては白煙や黒煙が発生すると通知があったが、これは配付資料中の排ガス測定を行っている常用のガスエンジンの事か。

武田：6月2日の試運転は、非常用の発電機の定期点検である。非常用の発電機は重油を使用するため試運転時に黒い煙が上がるが、月に1回の試運転は短時間で終わる。しかしながら、6ヶ月に1回行う法定の定期点検では黒煙の発生が少し長い時間に及ぶことから、案内を出している。

住民：情報が行き渡るよう連絡方法について検討してほしい。

武田：了解した。

住民：峯の下の住民から騒音について相談が寄せられ、武田では屋上防音壁の工事を行っていると聞いているが、その進捗について教えてほしい。

武田：以前より峯の下の住民の方から騒音について意見をいただき、これまで

騒音測定や原因調査を行った結果、研究棟屋上の機械音が原因である可能性が否めないことが分かった。

専門業者から、防音壁の下部にある隙間から音が漏れている可能性があるとの助言を受けたことから、その隙間を埋める工事を進めている。研究所5棟、東西に合わせて10カ所に隙間があり、そのうちどこが原因である可能性が高いかを究明するために、効果を見ながら段階的に工事を行ってきた。

昨年度、春から夏にかけて4箇所を塞いだ。春によく聞こえることから、その後は工事を中断して状況を確認しているところである。

今年度も引き続き騒音の状況を見て対応をしたい。

住民：たまに聞こえる時があるようなので、引き続き対応をお願いしたい。

武田：今後も引き続き対応していく。

住民：朝の通勤時間と周辺の学校の通学時間が重なっており、川沿いの歩道のところが混んでいる。

子供のマナーが悪いところもあるが、武田さんの従業員だけではないと思うが、自転車で通勤している人がいて危ない。

通勤時の従業員のマナー向上等の対応をお願いしたい。

武田：年に1～2回自転車の安全運転教育を行っている。その都度連絡をいただければ対応を考えて行きたい。

マナーなどの教育の機会を設けるようにしたい。

お気づきの時に連絡をお願いしたい。

住民：武田さんは、フレックスになっているのか。7：30～8：10 くらいの時間帯に、どのくらいの通勤者がいるか把握しているか。

可能なら、徒歩または自転車で、大船方面から来ている人数を調べてほしい。

武田：把握はしていないが、検討したい。

住民：年4回の環境測定のうち、1回、やや高い値を示している。原因は何かあるのか。

武田：振動測定した日に工事等は行っていない。

住民：何か振動するものはあるのか。

武田：研究所内に、特に振動を起こす機器はない。

測定地点は敷地境界であり、研究棟からは離れているところである。数値がやや高いとはいえ管理目標値の半分程度であるため、実際はほとんど揺れを感じないレベルの振動であろう。

住民：研究所のオープン時は見学会を行っているが、その後そのようなことは行っていないのか。

武田：秋祭り、桜と新緑を楽しむ散策で研究所の敷地は開放している。地域の環境団体の見学を受け入れたことがあるが、個人の方の見学は受け付け

ていない。研究施設は機密情報を取り扱っており厳しいセキュリティ管理を行っている。通常の研究活動を行っている中で見学者を受け入れるのは、かなり難しく、今後も見学会を開催する計画はない。

住民：先ほど市の方から質問が寄せられているとの話があったが、地域の方にこのような連絡会の他に説明会を行っていないのか。

武田：行っていない。

住民：直接話し合う場が必要ではないかと思うがどうか。

武田：安全や安心などに多くの要望があれば、考えたいと思う。

住民：武田さんとして、今まで地元の住民の声に対して、定期的に報告等を行ってもらっている。今後も説明会という形でなくても、ホームページなどで情報提供してほしい。

武田：研究所開設当初には、いろいろ意見があり説明を行っていた。今はそのような声はほとんどない。

武田としては、地元根差した研究所を目指しており、住民の声に対して常にコミュニケーションをとりたいと考えている。情報発信の仕方など必要に応じて検討していきたい。

5. その他

次回連絡会の開催は、今年度同様に環境調査の結果が来年5月頃まとまる予定のため、それ以降に開催したいと考えている。

また、それ以外に委員の皆様から要望があれば、武田薬品と調整の上開催したいと考えていることを伝え、了承を得た。